

神戸で東日本大震災を学ぶ―神戸復興塾 3.11 支援集会

神戸では東日本大震災の発災直後に、阪神・淡路大震災の復興に携わった専門家たちが東日本大震災の支援に手を挙げるとともに「神戸復興塾 3.11 支援集会」（以下、3.11 支援集会）を結成した。

2011年3月21日に第1回の支援集会を開催し、東日本大震災被災地に何ができるかを数時間にわたって議論した。以後、毎月11日に支援者や当事者が集まり復興の状況を報告し議論し合う場として集会を持ち、支援者、ボランティア、研究者やメディア、時には被災当事者も参加した。100名近くの人に参加した回もある。被災地の状況を連携して伝え支えあうネットワークもここから生まれた。集会は午後6時から10時の閉館ぎりぎりまで続けられ、数多くの報告や活発な議論を通して交流を深めていった。会場代は参加者のカンパで、資料は各自で準備、ファシリテーションはボランティアが担当し、すべての参加者で運営されていった。

この支援集会で行われた岩手県、宮城県、福島県での活動報告や情報交換によって、参加者は、支援物資からボランティア、復興土地区画整理事業、防災集団移転事業等の現地で進められていた多様な取組みを毎回聞くことで、広域であるために起きる地域毎に異なる多様な現実とニーズをふまえて、東日本大震災被災地のどこで、どのような事が起こり、何の支援が必要か、また誰に問い合わせれば良いか、被災地に向けて何ができるか、実行に移す手段を神戸に居ながらにして知ることができ、考えることもできた。

発災当初は、東日本大震災被災地はあまりにも広大で支援者が一人でできることは限られているように思っていた。「3.11 支援集会」は阪神・淡路大震災という被災・復興の経験がある場所だからこそ生まれたのだが、11年を超えて今もまだ継続し復興支援に取り組んで来れたのは、被災と復興に対する思いの強さと人のつながりがあったからではないかと思うし、この活動が被災地の復興に大きな役割をはたすことが出来たと思う。

現在は、復興が進むに伴い開催規模を縮小してきているが、今も終わっていない震災の現実と向後の災害に備え、3.11 支援集会は継続しているし、今後はこのような被災地の外から被災地を応援する取組みが全国各地で生まれることを願う。

神戸復興塾3.11支援集会は2016年に神戸まちづくり研究所の活動の一つとして引き継がれ、10年が経過した今も10~20名ほどの参加を得て開催を続けている。3年前からは開催を2カ月に1度とし、熊本地震(2016年)や西日本豪雨水害(2018年)などの東日本大震災以降に発生した復興支援報告も含まれている。2020年3月からはコロナ禍の中でも継続するためにオンラインで実施している。毎月11日(休日・祝日の場合は別途設定)に開催し、2022年9月時点で99回開催している。

詳細は神戸まちづくり研究所ホームページをご覧ください。

<http://www.kobe-machiken.org/311shien/311shien.html>

Facebook ページ

<https://www.facebook.com/profile.php?id=100069456850576>